

甲

開眼辟如未
俾教活眼論

完

癸題要旨

佛敎注眼論

東洋

邊無邊居士

造

余ガ今佛敎注眼論ヲ詠クノ始ニ於テ讀者ニ

言セサル可ラサル者アリ余ガ此論ヲ造ルハ決

シテ佛敎ヲ誹謗シ佛敎ヲ破壊セシト欲スルニ

非ズナリ唯平等無我ノ心ヲ以テ佛敎進歩ヲ真

精神真脈絡ヲ分析シ出シテ以テ其發動ノ機ヲ

シテ古人ノ成説ヲ滯死セザラシメント欲ス

ルノニ願フ所ハ讀者モ亦先以此意ヲ了シ同シ

ク平等無我ノ心ヲ以テ此論ヲ讀ミ同ク平等

諸宗家

無我ノ心ヲ以テ此語ヲ是非セラレシヲ
大藏經論ノ諸說紛々乱絲ノ如ク統一スル所ナ
キヲ以テ三論ハ之ヲ二藏三轉法輪ニ約シ法相
宗ニ之ヲ三時教ニ天台ハ五時ハ教ニ華嚴ハ六教
十宗ニ真言ハ十住心ニ約シテ以テ一代ノ諸教
ヲ撰シ尽セリ蓋此諸宗ノ祖師等ハ一切經藏ヲ
以テ悉皆初尊ノ金口ニ生ヅル者ト為シタリキ
延享年間京師ニ富永仲基ナル者アリ大藏經論
ヲ歩櫛シテ早ク佛一代ノ教説ハ百宗ニ止マル
而天者破論出定後語ヲ著シ大衆諸經ハ後世諸

出定後語

外道一別

菩薩等ノ宗明擬造ニ出ヅルヲ説
歐人等ノ説ニ因レハ彼外道教即チ印度哲學ト
稱スル者ノ如キモ其源ヲ四吠陀經典ニ取ルト
云レ歴代ノ哲家ガ之ヲ敷演シ之ヲ擬造シ今ヤ
全ク其本来ノ面目ヲ改ム蓋自己ノ宗明ヲ以テ
古人ニ擬シ其教起テ過去無量劫ニ託スルハ印
度人種ガ尚古風習ノ然ラシムル所ニシテ決シ
テ怪シムニ足ラズト云ヘリ
仲基カ佛一代ノ教説ヲ百宗ニ止マル者トシ大
衆諸經ヲ後世諸菩薩等ガ擬造ニ出ヅル者ト断

六時未融



△経論説相ノ万
善ヲ受テ其
感テ見ルル
定理ヲ見ルル
ト印を佛
多ク在リ
在リ精究
ノ出ニ出テ

四時教
余ハ今新夕ニ大藏經論ヲ以テ本據トシ且歐洲
東洋學士等ガ後々所ヲ折中ニ佛教ヲモ印度
哲學ノ一種高尚ナル者ト見做シ内外ニ教ヲ合

只テ佛ヲ
三ツルト三鹿野
六ニ味ニテ
テ佛者作
其経論ノ本
決シテ佛教ノ
ラフニ是子
後支ニ復テ
メナルヲ

定セシハ實ニ眼眼如炬ト云フヘク且徵據歴々
争フ可ク然レ其其發明ノ順序ヲ分テ六時ト
為スニ至テハ公未ダ全ク融セサル所アリ且其痛
多ク佛教ヲ貶スルノ口氣ナルハサカニ儒者ノ
悲ニサナリ

所謂六時トハ有宗般若華嚴涅槃部密教
三ノ學ナリ
余ハ今新夕ニ大藏經論ヲ以テ本據トシ且歐洲
東洋學士等ガ後々所ヲ折中ニ佛教ヲモ印度
哲學ノ一種高尚ナル者ト見做シ内外ニ教ヲ合

其發明進步ノ大段落ヲ分テ四時教ヲ立ツ
第一時教ハ佛出世以前ノ諸教即チ佛家ニ所謂
外道教ニシテ婆羅門諸家ノ主張スル所ニテ
ズト云テ大要一切實有ノ見ヲ出テズ
服水論師ガ水ヲ以テ万物ノ根元トシ凡仙
論師ガ凡能ク物ヲ生シ物ヲ壞ルト云ヒ方
論師ガ方ヲ以テ万有ノ本トシ時論師カ時
能ク一切ノ物ヲ造ル一切ノ物ヲ壞ル云
數論師ノ二十ニ論ニ於ル勝論ノ六句義
十句義ニ於ル又ハ梵天大自在天ヲ万物ノ



第三時教

一源トスル各派ノ如キ悉皆実有論者ナル
 ヲ見ルハ其外道論中ニ因果皆空論等
 ルハ佛教發明ノ後外道教中ニ於テノ擬造
 三出ヅル者トス
 第二時教ハ則テ釈尊カ佛教ノ發明ニシテ第一
 時教ノ生天ヲ以テ未解脱トシ出三界ヲ究竟ト
 ス大要我空法有ノ見ヲ主トス
 釈尊カ出家後成道前苦行外道又ハ阿羅々
 迦蘭等ノ諸外道ニ從テ其道ヲ學ビタルヲ
 大藏經ニ見ル且其生天ヲ以テ未解脱ト

三出三界ヲ究竟トシ四種姓ノ區別ヲ廢シ
 タルガ如キコト一家ノ新發明ナシ其他教
 相事相(原理サヘモ)多ク第一時教ニ出ツル
 ノ證迹大藏中ニ於テ歴々徴スベシ釈尊ヲ
 第二時教ニ撰スルハ之ガ為メナリ
 佛一代ノ教後有宗ニ止マルルノ論ハ本論中
 ノ一大闡目ナリ氏詳ニ之ヲ後ニト欲スレ
 ハ廣ク諸經論ヲ引用シ其後相ノ彼此相関
 係スル脉絡ヲ發掘辯論セカレヲ得ズ之ガ
 為メ則チ一大部ノ書ヲ成スニ至ラン故

今服部天游が赤保々中ノ一節ヲ抄出シ
テ止マン赤保々ニ曰凡諸大衆經ハ皆是後
人ノ假託ナルヲ疑フベキ者ナシ何如トナ
レバ凡小衆ノ後ハ事實ナリ大衆ノ説ハ空
理ナリタトヘバ釈迦ノ行由ヲ述ルカ如キ
小衆ニハ十九出家三十成道八十入滅ト説
ク大衆ニハ佛成道ヨリ久遠劫ヲ歴タリ又
滅度ヲ示スト云凡実ハ滅度セズ常ニ靈山
ニ在リテ説法スト説ク是先以其事實アリ
テ後ニ空理ヲ附會セルヲ明ナリ且又小衆

ノ名目ハ皆正義ナリ大衆家ハ多ク小衆ノ
名目ヲ假テ翻案シテ其大衆ノ義ヲ成セリ
タトヘバ四諦ノ如キ諦ハ眞実不虛ノ義ニ
シテ苦ハ実ニ苦集ハ実ニ因等ト説ク是本
義ナリ然ルニ大衆ニハ諦非諦非集等ト説
ク又蘊ハ積聚有為ノ義ニシテ固ヨリ無為
ヲ撰セス然ルニ大衆ニハ蘊即無為ト説ケ
リ且又法數ニ就テ言フニ小衆ニ四大ヲ説
ケバ大衆ニハ五大六大七大ヲ説ク小衆ニ
六識ヲ説ケバ大衆ニハ七識八識九識十識

第三時教

三後々是皆後々漸々ニ増加セルナリ如上
 ノ三端ノ畧一ニノ例ヲ示スノ三餘ハ准知
 之ベシ此ノ如クナレハ先以小乘アリテ後
 = 大乘起シコハ決セリ云云
 第三時教ハ概略佛滅後五六百年以後ニ在テ馬
 鳴龍樹提婆等ノ諸菩薩ガ大乘空教ノ究明ニシ
 テ大要我法ニ盡シ見ニ及ス
 如来滅後五六百年ニ小乘教興リ諸大乘經皆
 龍宮ニ遷ル滅後七百年ニ龍猛菩薩龍樹ノ
 異訳海ニ入テ經ヲ取り流轉スト云ヘルガ

第四時教

如キ其擬造ノ時間ヲ龍宮ニ入ルニ任ス施
 教ノ方便最モ妙ナリ云ベシ
 第四時教即チ最末時教ハ概略佛滅後八九百年
 向ニ在テ無着世親護法等ノ諸菩薩ガ中道妙理
 ノ究明ニシテ大要非有非空一切唯識ノ見ヲ目
 的トス印度哲学ノ進歩此ニ至テ極マリ殆佛教
 ノ能事終リタル者ト云フベシ
 無着菩薩ガ夜ニ都率天ニ昇リ現ニ慈氏ヲ
 教ヲ稟ケ畫ハ陶淳ニ降リ廣ク衆生ヲ教ル
 云云凡衆生ノ執深フニテ化ニ從ハス故ニ

慈氏ヲ請フテ中天竺阿瑜處ノ講堂ニ降ラ
 シメ瑜伽等五部ノ大論ヲ説ク唯無着ノミ
 慈氏ニ近ツクヲ得餘人ハ但遠ニ聞クヲ得
 知リ是則如來在世親ニク直ク所ノ非有非
 空中道妙理ニシテ衆生ノ和見悉ク伏スド
 云ヘルガ如キ施教ノ方便愈出テ愈妙ナリ
 誰カ知シヤ所謂慈氏ナル者ハ無着菩薩ガ
 腹心無ニノ法友ニ非ルヲ
 此四時教ハ其光明教起ノ順序ヲ説ク者ニシテ
 甲倒シテ起リ乙減ビテ丙出ツルト云フニ非

ズ故ニ第一時教起ノ後ニ尚第一時教ヲ執シ弟
 三時教弟四時教起ノ後ニ尚第二時教ヲ執スル
 者アル等又ハ各教互ヒニ他ノ長處ヲ取テ自己
 ノ教門ヲ潤色スル等ノ混雜アリシハ勿論ナリ
 大藏經論ノ判撰ニ昔ムモノアルハ職トシテ此
 等ノ混雜ニ之レ由ル

佛滅後三百年間ニ正地部ノ正地圖師ガ始
 四吠陀經典ヲ字ビ後佛門ニ入り羅漢果ヲ
 得四吠陀及ビ毘伽羅論中ノ好語ヲ取テ佛
 經ヲ莊嚴スト云ヘルカ如キハ是第二時教

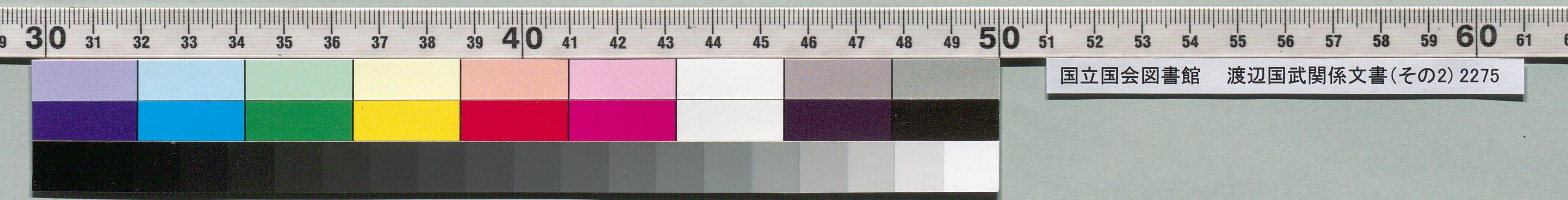
者流(三)地部ハ有宗二十部(一)ガ第一時教
ヲ混ジタルナリ又佛滅後九百年間ニ薩婆
多部ハ俱摩羅多ガ上足ノ弟子訶梨跋摩ソ
ノ師ノ見解甚ク淺劣ナルヲ嫌ヒ諸部最長
ノ義ヲ簡取シ以テ一類トナシ成実論ヲ造
スルヲ我法ニ空ヲ後クガ如キハ第四時教起
ル時ニ當テ第二時教(薩婆多部ハ有宗二十部
ノ一)ヲ執ゼシ者ガ第三時教ヲ混ジタルナ
リ其他五論宗ニ法華ノ三轉法輪ヲ撰入シ
テ如キルハ第一時教者流ガ第四時教ヲ

混ジタルナリ

四教地抗

上文ニ説ク如ク各教互ヒニ相混雜スル者アレ
バ又各教相俱ニ抵抗スル者モアリ第一第二第
三第四ノ各教雜然并立互ヒニ盛衰アリタル者
ト見ユ

數論師ガ金目因ニ入テ録ヲ以テ腹ニ巻キ
頂ニ火盆ヲ懸キ王ノ論教ヲ折テ佛僧ト稱
儀セシヲ求メ世界ハ初有後無ナリト云
フヲ諱ヒ終ニ佛僧ヲ勝テ王ヨリ金ヲ賜
ヒ所謂金七十論ヲ作りタルガ如キハ第一



法(中)四時教者
師
中(師)者南(師)者一(大)
來(師)者南(師)者一(大)
智(師)者南(師)者一(大)
吹(師)者南(師)者一(大)
多(師)者南(師)者一(大)

時教者流カ第三時者流ト抵抗ニ勝タル
十ノ又提婆菩薩カ天竺大團上都四衢道中
於テ高坐ヲ敷キ一切諸聖中佛聖最才一
一切諸法中佛法正カ一切救世中佛僧為
一論ヲ立八方ノ論師能ク此信ヲ破
スル者アラハ我當ニ首ヲ斬テ其屍ヲ謝ス
後論スル三月ニテ外道百
餘万人ヲ度ニ出テ林間ニ就キ百論二十品
上テ造ルト云フガ如キハ亦三時教者流ガ才
一時教者流ト抵抗ニ勝タルナリ

↑
佛教活動

能ク此四大段落ヲ心ニ記シテ大藏經論ヲ究ス
ルノ學士アラハ佛教ハ決シテ固定不動ノ死物
ニ非ズ歷代ノ新發明新見ヲ漸次加上シテ成
リ立テタル一大哲學ニシテ其指針ニ遠ク方
今歐洲哲學諸家ノ上ニ出ヅル者アルヲ知り其
經論真擬ノ如キハ決シテ佛教ノ累ヲナスニ足
ラサルノミナラス却テ其活潑々地ニ逐次進歩
ノ妙アルヲ喜バニ且夫四都都一ナラズ只一都
獨逸ノ哲學家トシテ此ガ歐洲哲學ノ進歩ヲ
線ノ発動トシテ之ヲ自己發明ノ口ビツクニ
カニ的ヲ同

能ク此四大段落ヲ心ニ記シテ大藏經論ヲ究ス
ルノ學士アラハ佛教ハ決シテ固定不動ノ死物
ニ非ズ歷代ノ新發明新見ヲ漸次加上シテ成
リ立テタル一大哲學ニシテ其指針ニ遠ク方
今歐洲哲學諸家ノ上ニ出ヅル者アルヲ知り其
經論真擬ノ如キハ決シテ佛教ノ累ヲナスニ足
ラサルノミナラス却テ其活潑々地ニ逐次進歩
ノ妙アルヲ喜バニ且夫四都都一ナラズ只一都
獨逸ノ哲學家トシテ此ガ歐洲哲學ノ進歩ヲ
線ノ発動トシテ之ヲ自己發明ノ口ビツクニ

不可之者マシテ其記カレテ其理ヲ明カス

今
年
の
世
界
は
大
変
な
事
が
起
り
ま
す
と
い
ふ
人
が
多
く
な
り
ま
す
。

附會シテ哲学史ノ一書ヲ著セヨリ以來
諸志ノ端迄一ナラズ然レ氏方今歐洲ニ於
テ哲学史ノ請究ハ哲家ノ一大事業トナシ
テ

歐洲ノ哲学ハ歴代汚隆アリト云氏 **大要**
元前六七百年間 **大要**
唱へ出シタル一切実有 **大要**
識ノ見ト二者ノ争競 **大要**
遠大ナル者流ガ **大要**

一時教説

切實識論ニテ伊蘭西ノゴニト者流ガ
一切実有論ナリ之ヲ印度哲
学ニ照合スル寸ハ殆トオ
首尾兩端ノ争競ナルト也
以下現在ノ各宗判撰ニ墨論ニ本論ヲ纂ヲ結

一時教ハ支那日本ニ傳ハラ大教
論十箇義論而メ近來歐太等ガ梵本ヨリ訳出セ
ル者ヲ見ルニ數論勝論ハ勿論福家ノ哲理固明
等ヲ後クテ却テ詳ナリ俱教ニ志アル學士ハ



日新
宗撰

印度、^星國ニ於テ大衆教ト稱スル者、三論宗
ト法相宗ト、三論ノ外ニ三時教ト云テ法相ノ
外ニ四時教タルハ固ヨリ論チニ三論ニ二歳ヲ立
法相ニ三時教ヲ立ワル者恰カモ余ガ判教ノ說
ト合ス。佛敎ノ本因ナレハナリ、其一切經藏ヲ親
尊ノ金口ニ託シ且チ一時教起リ佛出世前ニ在
ルヲ以テ以テ拆シテ外道トスルガ如キハ護法
施教ノ熱心ニ出ル者ナレバ深ク咎ムルニ足ラ
ス余ハ却テ^話賭^サ菩薩^ガ騰^ガ氣^壯烈^術數^無量^ナルヲ

宗撰

愛ス

天台華嚴ハ之ヲ四時教ニ撰ス所謂止觀ト云
ヒ法界觀ト云フ者皆是中道唯識^體體^也
原理唯ニ^ハ又^リ俱舍成實ハ之ヲ第一時教ニ撰ス
ハ、成實ハ上文ニ後ク如ク我法ニ空ヲ後クト
云氏固トテニ教者流ニ出テ所謂大衆ヲ撰テ
小衆ヲ親スルハ後モアレハ今假ニ之ヲ二時
教ニ撰スベシ

宗撰

真言宗ハ佛後七百年龍猛菩薩南天^山鐵塔ヲ
開キ金剛薩埵ニ遇ヒ受職灌頂スル稱スルニ云



本宗の
 禪宗ハ
 理ハ
 禪宗ハ
 後
 思
 四
 以

八中四時教者、其支流ニ
 所謂秘密莊嚴心ヲ以テ
 此モハ、同ク之ヲ中四時教ニ
 平田篤胤ハ、真言宗ヲ空海大師
 大日經蘇悉地經等ヲ其擬造ト定メ
 此後惣
 印度哲學ト大家ニ出タル
 大師等ノ得テ、辨スル所
 輪ハ、從大品ニ出金剛手菩薩受持甚深微妙
 給持門ノ從六度經ニモ出タルヲヤ

禪宗

禪宗ハ蓋達磨大師ガ臨機ノ新意見ニ出タルナ
 ルベシ所謂西天二十七祖相承ノ如キハ、曾テ印
 度ノ書ニ見ヘズ古人モ智矩ガ擬作ナラシム
 へリ服部天游禪宗ヲ論ニテ曰其初ノ梁因見義
 學、紛々應機所創乎ト是先ツ我心ヲ得タリ佛ヲ
 宣シ祖ヲ呵シ喝ヲ行シ捧ヲ弄スルハ活機ヲ假
 テ唯識妙理ヲ體認シ其法數ヲ畧スルナリ是
 モ亦中四時教ノ支流ニ根ス

文ニ從ク所ノ歐洲哲學ノ一派ソヒスル
 プロタゴラスヲ鼻祖トス唯後ノ理ニ基



二学會通

二学會通

キ有テ無トシ是ヲ非トシ世上一切ノ事
理ヲ被壞セリ余嘗謂禪佛敎中之ソヒス也

方今ノ洋学者流ハ毎ニ政学物理学又ハ耶菴敎
等ニ偏依シテ哲理ニ疎ク佛敎ノ如キハ其指皈
何物タルヲ極メズ概シテ之ヲ東洋ノ妄説ト
臆断シ又佛敎各宗派ノ学士等モ徒ラニ六道輪
廻須弥天動等ノ因縁ヲ墨守シ其旨髓タル哲理
ノ超妙ナル所以ヲ解セサル者ニ似タリ嗚呼能
クニ学ヲ融會貫通シテ以テ哲学上ノ一新面目

立教發願

ヲ開カシ者ハ果シテ是誰ノ
耶菴敎ノ淺劣ナル之ヲ印度哲学ニ照合ス
ル寸ハカ一時敎中ノ最下等ノ者タルハ固
ヨリ論ナシ

余嘗テ佛敎玄義ノ一書ヲ造リ歐洲流ノソ
ニ因リ非有非識即識即有真俗無ニ中道実相ノ
哲理ヲ立之ヲ横文ニ訳シ一ハ以テ歐洲哲家
品译ヲ乞ヒ一ハ以テ言詮不及意思不到ノ百尺
竿頭ニ立テ彼ヘシザルガ空有同ノ論一真舍南
論一切唯識論等ノ其推銜ヲ爭ハニト欲セシカ



不学ヲ耻テ止メリ今茲ニ臘餘ノ残日ヲ以テ佛
教注眼論ヲ造リ(明治十三年十二月三十日)起筆
同三十一日(成)併一代ノ教説ヲ有宗ニ止マシ者
トシ新々ニ印度哲学進歩ノ四時ヲ立以テ内外
諸教ヲ撰シ及ニ敢テ古人ノ成説ニ因ラサレ者
ハ彼平田篤胤等ガ如ク以テ謗法ノ資糧ト为セ
ニト欲スルニ非ス又諸宗祖師等ノ如ク謗法ノ
熱心ニ出ワルニ非ス唯ソノ哲理ノ超妙ナルヲ
喜ヒ諸宗共等ヲ以テ勇猛精進ノ心ヲ発揮シ以
テ旧来併教上ノ陋風ヲ一洗シ以テ其真趣味真

結義唱偈。

功徳ヲ知テシメ活潑々地ニ至高至真ナル弟
時教ナル者ヲ拙出シテ東西ニ洋ノ哲理ヲ
合テ以テ宇宙ノ大觀ヲ極ムルノ日アラニ
欲スルノニ嗚呼我既々意ヲ世途ニ絶トシ
田頂黒衣者ニ向テ喋々辨ヲ好ム者ナラニヤ
若シ夫廣ク大藏經論ヲ引用シ上文ニ所謂四時
ノ教相ナル者決シテ臆断ニ非ルヲ證ニ悉ク漸
次加上ノ徵據ヲ網羅シ以テ一大印度哲学史ヲ
結成センヲハ能ク朝夕ノ講ニ非ス之ヲ
他日ニ期セザルヲ得サレ也然レモ聰明特達ノ



浮士等此論ヲ把テ一々之ヲ大赦經論ニ照合セ
公持ニ自ラ手舞足踏ヲ知ラザル者アラントス
豈亦余カ歎々スルヲ待タニヤ書シ畢テ後一偈
口ヲ衝テ出ツ
世間無數睡驢漢 畢生不了實相觀
看取世尊真功德 開往非來入涅槃
唱一喝再唱
楊梅橋前櫻一樹 花開花落幾彩霞
傍人不解春真意 東風狂談三年花
佛法活眼論

哲学内編

緒言 哲学要領

真諦学

表象学

世道学

欧洲哲学史

東洋哲学史

同外編

政治学 兵学

